

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

鹿児島市立向陽小学校 教諭 吉満吾郎

1 単元名 「向陽校区治水緑化プロジェクト ～自然災害に負けないまちをつくろう～」

2 単元の目標

- 向陽校区を流れる川の現状や過去の状況、災害の発生の可能性や実際に起こった災害について調べ、これからの川の治水と町の防災について考えることができる。 (知識及び技能)
- 向陽校区を流れる川の流れの変遷がとらえられる地図や、町の様子の変化を捉える地図をもとに自分たちの町の変化について考える作業や、実際に川や川の周辺にある治水対策について思考する中で自分の町の防災や町の人々がどのような役割を果たしていけるか考え表現することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 向陽校区に住む人々が自然災害に対して安全に行動し命や生活を守っていくことができるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に調べたり発想したりしながら自分たちの町の安全を守る取り組みについて町の人々に知らせながら取り組んでいくことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「脇田川の流れの変化や広木・中間地区の町の様子の変化」「脇田川の水害対策」「鹿児島市の脇田川に関する防災対策」を教材として取り上げる。実際に川の流れを見学し手災害が起こる可能性について考え、地域の方々を招いて町の昔の様子を教えていただいたり、市の防災課の方々を招いて脇田川の防災や区画整理について教えていただいたりする活動を通して、地域の実態を把握し地域の防災対策について思考し自分の生活と自然災害を結びついて考え、地域の防災について啓発、実践していくことで主体的に学び表現していくスキルの向上を図ることができる。

(2) 児童観

本校第4学年の児童は、第2学年において町探検を行い、地域にどのような施設や店舗があるのか、どのような人々が働いているのかという知識を得ている。また、日ごろの登下校や地域で行われる各種行事に参加するなかで地域の人々との触れ合う機会も体験してきている。また、向陽フェスタというイベントでは様々な形で児童が参加し、児童が活躍する場もみられる。そのような活動を通して現在の地域に深く関わることができている児童にとって、自分が住む県や地域・校区の過去の様子を知る活動を通して町を防災の観点から見つめなおし、これからの町のあり方や自分の生活の在り方を思考していくことは向陽地域により深く関わるができる機会になるとともに、よりよいまちづくりについて思考していく人材を育成することにもつながることが期待できるといふ点で本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず鹿児島県内で起こった水害に関する各種資料をみて水害についての基礎的な知識を得る。この活動を通して校区内を流れる脇田川も氾濫する可能性があるかもし

れないということに気づかせる。そのようなことが起こるとどのような影響があるか予想し、校区マップに予想を書き込む。あわせて、実際に校区内の脇田川の流れを見に行き、災害が起こりそうな場所を改めて予想しなおす。この活動を通して、県内で起こった災害が自分の生活でも起こりえることであるという認識を持たせたい。

次に、過去の資料をもとに過去の向陽校区（向陽小が開校する前の様子も含める）において、実際に発生した災害があるのかを資料で調べたり、昔の地図と現在の地図を比較したりする活動や地域の方から昔の脇田川の話や災害の話聞く活動を通して、地域で起こった過去の災害や、以前の脇田川と現在の脇田川の変化について知る。実際に身近に住む方々からの話を聞いたり現在と過去の地形を比較したりするなかで、集中豪雨等が増えてきている現在においても脇田川では洪水が起きていないことへの疑問を持たせることで、河川の災害を防ぐための手立てが講じられているのではないかということへの予想をもたせていきたい。

さらに、県や市の防災課の方から「脇田川水系流域治水プロジェクト」に関することについて教えていただくことで、自分の予想と照らし合わせ教えていただいたことを実際に確かめ、自分の生活を守るために多くの事業が多くの人々によって行われていることが自分の生活を守ることに繋がっていることを理解させたい。このような活動を通して、各家庭でもできる治水として貯水やプランター緑化による一時貯水の実践を行い、獲得した知識や地域の人々に紹介したいこと、お願いしたいことを「向陽校区治水プロジェクト」としてまとめ、向陽フェスタで発信できるようにしていきたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…現在行われている治水が河川の拡張だけではなく貯水という方法によって豪雨時の河川への流入を減少させるという考え方で行われていることから、災害の被害を防ぐために各家庭でも取り組めることがあり、それが地域を守ることに繋がるとのこと。

公平性…同じ地域の住人として自分の住む場所が安全か否かに関わらず、災害時にはお互いが助け合えるような考え方をもてるようにすること。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

・ 多面的かつ総合的に考える能力

地域の中にも様々な場所があることから、災害が起こった時に被害にあいやすい場所やあいにくい場所、避難したほうが良い場所や避難しないほうが良い場所があることを捉える。

・ コミュニケーションを行う力

昔の地域について尋ねる際には、自分の祖父母や地域の方に質問しながら深く話を聞き出すことができる。また、様々な視覚情報からそれぞれの立場での考えを出し合い、地域の治水や防災についてよりよい考えを導き出すことができる。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく、高齢者や幼い子どもなど、同じ時期を過ごす皆が安心して過ごせるまちづくりが大切である。

・達成が期待される SDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①自分が暮らす地域の水害の事例と水害に対する備えや避難上の留意点について理解している。</p> <p>②自分で調べたり様々な人の話を聞いたりして、獲得した知識を目的に合わせてまとめ表現する技能を身に付けている。</p>	<p>①目的にあわせて見学する活動を通して、自分に必要な情報を集め課題解決のための方策をまとめている。</p> <p>②資料や自分が得た様々な情報、グループでの会話を通して自分の考えをまとめたり、表現したりしている。</p>	<p>①地域の人々が水害の被害にあわずに安心して生活できていることが実現している原因を積極的に調べ考えている。</p> <p>②水害について学んだことや伝えたいことを地域の人がわかりやすいように発信しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全8時間）

主な学習活動	学習への支援	○評価・備考
<p>1 鹿児島県でおこった水害の資料をもとに水害の影響や水害の発生状況を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨で川が氾濫すると大変なことになる。 ・家が水没したあとの生活は大変だろうな。 ・向陽校区にも川があるけど大丈夫なのかな。 <p>2 脇田川が氾濫したらどうなるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の周りは大丈夫かな。 ・坂の上にある家は大丈夫だと思う。 <p>3 脇田川を実際に観察して氾濫の危険性について予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅の小さなところは危ないかもしれないな。 ・高いところから水が流れ込むところは大丈夫なのかな。 ・予想していたよりも危ないかもしれないな。 	<p>○最近鹿児島市周辺でおこった水害について知っていることがないか確認し豪雨や水害についてのイメージを持たせる</p> <p>○鹿児島県や鹿児島市の水害の記録を関係機関の防災課から借り、全体的な状況から着目させたいうで、脇田川水系の災害に目を向けさせていく。</p> <p>○鹿児島市内の主な川の流れについては地図を用いて場所の確認を行う。</p> <p>○登下校中に毎日のように通っている川の様子や資料で見た災害時の川の様子から、実際に水害が起きた時の様子を想起させるようにする。</p> <p>○向陽小校区マップは拡大したものを用いながら相互に意見を交流しながら予想を立てさせる。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>ア② (知技)</p> <p>イ① (思判表)</p>
<p>4 向陽校区で過去に起きた水害や昔の川の流れについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家があるあたりは被害があったのかな。 ・脇田川の形がだいぶ変わっているな。 	<p>○地域の人々から昔の川の様子や町の様子が写った写真資料なども提供してもらい現在の町の様子との比較をしやすくする。</p> <p>○航空写真図を横並びに提示する</p>	<p>ア② (知技)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・昔の脇田川は今と比べて幅が小さいな。 5 向陽校区で起きた水害や昔の川の様子について地域の人から話を聞く。 ・昔の脇田川は小さかったのだな。 ・広くしたおかげで災害は少なくなったのだな。 ・川の流れを変えるのは大変なことなのだな。 6 区画整理事業や脇田川水系流域治水プロジェクトについて関係機関の方から話を聞く。 ・洪水を防ぐには川に流れ込む水を少なくするという方法もあるのだな。 ・貯水という方法でも洪水が防げるのだな。 ・貯水なら地域の家で取り組むこともできるのではないかな。 ・川だけじゃなくてまわりの山のことも考えないといけないのだな。 7 地域にある植え込みや、プランター緑化ができそうな場所を探し、雨水を一時的にためることができるところや物を配置する作業を行う。 ・どんな場所に置くとみんなに治水緑化プロジェクトのことを知ってもらえるかな。 ・目につきやすく知ってもらいやすくするための工夫ができないかな。 	<p>ことで、実際の川の流れの変容を詳細に比較できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の人々からの話を聞く際には、実際に川の形が変わってよかったことだけでなく困ってしまったことも聞き出し、事業の二面性についても考えることができるようにする。 ○関係機関の方からの話を聞く際には、川の治水を行うために必要な事柄を数値やグラフ等を提示しながら見せていただくことで、具体的な情報を得られるようにする。 ○治水事業の二面性についても触れてもらい、児童が多面的な考えをもって発表につなげられるようにする。 ○地域の方々に事前に取り組みの内容を知ってもらい、配置してほしい場所などは把握しておく。 ○地図などを利用し、少しずつ計画的に配置していけるようにしていく。 	<p>ア② (知・技)</p> <p>ア② (知・技) イ① (思判表)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 8 向陽フェスタで地域の人々に脇田川の治水について紹介する準備をする。 ・みんなに知ってもらうには、自分たちが使った資料も見せたらよいかもね。 ・最近の豪雨災害のことを紹介すればみんなも興味をもってくれないかな。 ・地域の人々にもし集中豪雨が起きたら協力してほしいことを伝えないといけないね。 9 活動の振り返りをする。 ・自分たちの考えをわかりやすく伝えることができたかな。 ・ほかの機会や方法でフェスタに来ていなかった人にも伝えることはできないかな。 ・自分がやったことはまちのためにどんな役に立ったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料提示の方法や紹介する際の組み立てについては、ICTを活用しながら自由に構想させることで、様々な発想を導き出せるようにする。 ○地域の人々に広く知ってもらわなければこの活動の意義が薄れることを考えさせ、より広く情報を伝えるための方法を考えさせることで、今後の活動へと発展させていく。 	<p>イ② (思判表) ウ② (主体的)</p>